

単元名

とび出せ！町の たんけんたい

教科書 下巻 p.28 ～43 単元の配当時間 10時間／活動時期 5～7月

単元の目標

町を探検する活動を通して、町の場所やそこで生活したり働いたりしている人について考えたり、公共物や公共施設のよさを感じたり働きをとらえたりして、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや身の回りにはみんなで使うものがあることがわかるとともに、それらに親しみや愛着をもって、正しく利用したり安全に生活したりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
町について どんな ことを知っているかな（1時間） 自分が住んでいる町について、知っていることを紹介し合う活動を通して、町にはいろいろな場所があることに気づき、町への関心を高めることができるようにする。	態	町への関心をもって、自分の知っていることを進んで話したり友達の話の話を聞いたりしようとしている。	・「あの公園には、春になるとおたまじゃくしがいるよ」「図書館には面白い本がたくさんあるよ」など、自分の生活経験に基づいて話している。 ・友達の発表を聞いて、自分の知らなかった町のように関心をもって、意欲的に町探検に向かおうとしている。	●「家の近くや学校に来る途中でどんなものや場所があるかな?」「友達に教えたい場所はあるかな?」などの声かけをする。
町たんけんの そうだんをしよう（2時間） 町探検に向けて、行きたい場所や会ってみたい人、聞いてみたいことを伝え合ったり、持ち物やルールについて話し合ったりして、町探検への意欲を高めることができるようにする。	知	ルールやマナーを守って探検することや、安全に気をつけて正しく探検することが大切であることがわかっている。	「町で会った人に気持ちのよい挨拶をしよう」など、相手に対する意識をもったルールやマナーの大切さがわかったり、「あの道は狭いから気をつけたほうがいいね」など、安全に気をつける具体的な場所がわかったりしている。	●町には多様な人々がいることに気付かせ、その中で自分はどうに行動したらよいかということを具体的な場面で確認できるように支援する。（例：道路を歩くときや店の中でインタビューするときなど）
	思	行きたい場所や会ってみたい人、聞いてみたいことを思い描きながら、町探検の見通しを立てている。	「探検する順番を考えておくといいね」「お店では〇〇について聞いてみたいね」「探検にタブレットを持っていくと、写真や動画を撮ることができるね」など、町探検の見通しをもって話し合ったり、カードにかいたりしている。	●友達の話聞いて、見たいことや知りたいことを考えるように声かけをする。 ●教科書下巻 p.33を参考にするように声をかけ、探検に必要な物を考えさせる。

単元の評価規準

- 知識・技能
町を探検する活動を通して、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや身の回りにはみんなで使うものがあることがわかっている。
- 思考・判断・表現
町を探検する活動を通して、町の場所やそこで生活したり働いたりしている人について考えたり、公共物や公共施設のよさを感じたり働きをとらえたりしている。
- 主体的に学習に取り組む態度
町を探検する活動を通して、それらに親しみや愛着をもって、正しく利用したり安全に生活したりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
町たんけんに出かけよう（2時間） 安全に気をつけて町探検に出かける中で、町の人や場所のよさに気付くとともに、見付けた場所や出会った人と自分の生活との関わりを意識しながら、気付いたことを話したり、記録したりすることができるようにする。	知	町には、そこで生活したり働いたりしている多様な人々や、さまざまな場所があることがわかっている。	「花のお店の〇〇さんが挨拶してくれました。うれしかったです」「公園にはお年寄りや小さい子など、いろいろな人がいました」「パンのお店からとてもいいにおいがしました」など、探検で見付けた店や場所のことだけでなく、店や町の人のように気付いている。	●町探検で撮影した写真や動画を見返して考えるように促す。
	思	見付けた場所やもの、町で出会った人と自分の生活との関わりについて、気付いたことを話したり、カードに記録したりしている。	「和菓子のお店の〇〇さんが夏のお菓子について話してくれました」「〇〇さんが教えてくれたとおり、公園におたまじゃくしがいました」など、町で出会った人との関わりや生活の中で発見したことについて、友達と話したり、カードにかいたりしている。	●文字でかくことが難しい子どもには、絵でかいてもよいことを伝える。
町の 人と話してみよう（3時間） 町の人にインタビューする活動を通して、町の人や場所への親しみや愛着をもち、それらと適切に接することや安全に生活することができるようにする。	知	目的をもって相手と関わる中で、相手や場に応じた言葉遣いや挨拶を意識しながらインタビューしている。	相手が自分たちのために時間をつくってくれたことに感謝しながら、インタビューしている。	●インタビューのルールやマナーについて、事前に指導しておく。
	態	町の人と関わりたいという思いや願いをもって、相手の状況を考えながらインタビューしようとしている。	「今、お話を伺ってもいいですか」など、相手の都合を意識したインタビューをしたり、インタビューする中で生まれた新たな疑問について進んで質問したりして、町の人と積極的に関わろうとしている。	●質問したいことを事前に準備してからインタビューを行うようにさせる。また、話するのが苦手な子どもには、インタビューの練習をしてから行うようにさせる。
はっ見した ことをふりかえろう（2時間） 町の人や場所のことを振り返ったり交流したりする活動を通して、町探検で気付いたことを友達と比較したり関連づけたりして、町の人や場所に親しみや愛着をもつことができるようにする。	知	自分たちの生活には、町のさまざまな人や場所が関わっていることや、それらの人や場所が自分たちの生活を楽しくしていることに気付いている。	「和菓子のお店の〇〇さんのおすすめのお菓子を食べてみたいな」「公園にはきれいな花がたくさん咲いていたよ」など、町で親しみを感じる人や愛着のある場所が増えたり、友達の話聞いて新たな町のよさに気付いたりしている。	●「前より知っていることが増えたね」と子どもの気付きを自覚させたり、「〇〇さんがこんなことを言っていたね」と想起させたりするように声かけをする。
	思	愛着をもった人や場所のことを振り返りながら友達に伝えている。	町探検で見付けたことや楽しかったこと、関わった人などを振り返り、その中から伝えたいことを選んで付せんにかいたり、友達に伝えたりしている。	●探検のようすの写真やインタビューの動画を見せたり、友達のかいたカードを見せたりして、自分の心に残っていることや伝えたいことは何か、思い出すことができるようにする。
	態	町の人や場所に親しみや愛着をもって、それらを大切にしようとしている。	町のよさを実感し、さらに聞いてみたいことや調べてみたいことを記録カードにかいたり、言葉で表現したりしている。	●町の人の写真とともに、町の人の言葉を板書したり、探検のようすがわかる写真や動画を掲示したりして、探検で見聞きしたことを振り返ることができるように支援する。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
～やってみよう～ みんなでつかう 町の しせつに 行こう （配当外） 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きをとらえたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人がいることがわかるとともに、それらを大切にし、安全に気をつけて正しく利用できるようにする。	知	町にはみんなで使うものや場所があることや、それらを支えている人がいることなどがわかっている。	「〇〇さんはみんなが探しやすいように本を整理していると言っていました」「駅には車いすの人が使いやすいようにスロープがあったよ」など、働く人の思いや、多様な人々が使いやすいような施設の工夫に気付いている。	●探検で撮影した写真や動画を提示したり、友達の意見を聞いたりして、そこで働く人の存在を想起できるように支援する。
	思	みんなで使うものや場所について振り返りながら、それらのよさを感じたり働きをとらえたりしている。	みんなで使う場所の利用のしかたや特徴を思い起こしながら、それを自分の言葉でまとめたり、発表したりしている。	●探検で撮影した写真や動画を提示したり、友達の意見を聞いたりして、そこで働く人の思いや公共施設の工夫に気付くことができるように支援する。
	態	公共物や公共施設を大切にし、安全に気をつけて正しく利用しようとしている。	「図書館で絵本の読み聞かせをしていると聞いたので、お兄ちゃんと聞きに行きました」「家の人といっしょに博物館の展示を見に行きました」など、普段の生活の中で公共物や公共施設を利用し、自分の生活を豊かにしようとしている。	●実際に公共物や公共施設を利用した子どものエピソードをクラス全体で紹介し、関心を高めるようにする。